復活節第４主日
世界召命祈願の日
子どもによる主日ミサ

福音朗読　ルカ 24・35-48

2024.4.21 9：30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭　高木健次神父

今日は子どもミサ――子どものためのミサっていうのはないんです、ごミサはいつも、すべての、みんなのためだから――でも、特に今日は子どもたちが役割をしてくださっているという意味で子どものミサですので、主には子どもたちにお話ししたいと思います。前に教会学校でわたしがみんなに「子どものミサをとっても楽しみにしています」と言ったと思うんです。それは、子どもたちは特別な力があるからです。子どもたちがなんかやってるだけで元気をもらえるから――そう、元気をもらえるんです。だから、ほんとならもう毎週やって欲しいくらい。だけど、それは今日一所懸命朗読してくれましたし、また、歌の――アレルヤ唱まで、ソロっていう普段聖歌グループの人たちが歌ってくれる部分も子どもたちがやってくれたから、そういう練習はとっても大変だったと思うんです。だからそれは大変だから、時々でいいんですけど、でも練習してみて、毎週歌の奉仕をしてる人たちの苦労も少し分かってくれたらいいなあ、なんて思うんです。

でも、役割は、例えば侍者とか朗読とか聖歌とか、そういう「これをやります」ってことだけではありません。ここに集まるってことそのものもがミサにとってはとっても大きな役割なんです。なんでかっていうと、神様がみんなを呼んでいるっていうことを儀式の形で表すのがミサだから、なるべくいろんな人が集まるっていうことそのものがこのごミサの意味を良く表すことになるんです。

なので、侍者とか朗読とか、そういう他の人と違う特別な仕事がなくても、ここにいるっていうそのことそのもので、この式の意味に――完全な意味を表わすためには世界の全人類が集まらなきゃいけないから難しいのですが――でも少しでもその意味に近づくように、たくさんの人が集まってくれるということはこのミサがそれだけで豊かになる。その意味では、今日スカウトのみんなも一緒に来てくれているので、来てくれているということそのものが一つの役割を果たしてくれているので、ほんとにありがとうございますと申し上げたいんです。

ミサっていうのは一つの儀式です。決まった動きがあって、決まった流れでやっています。しかし、その儀式を行うことが、この教会の、あるいはキリスト信者あるいはそこに呼ばれたみんなの最終的な目的ではないんです。その儀式を通して大切なことを思い出すためにあります。

スカウトもそうでしょう。スカウトだったら、例えば、先週は上進式っていうのがありました。そして、その中で誓いの言葉を言ったり、また、「掟」っていうのもあります――ボーイ以上なのかな、掟があるのは――でも、カブにも「定め」があります。その定めをみんなの前で言う、あるいはみんなの前で誓いを、「わたしは名誉にかけて次の三つを誓います」とみんなの前で暗記して言う。それがスカウトの目的じゃない。それは、何が大切かを思い出す――例えば、先週だったら、三人のスカウトがスカウトの掟の中で三つのことを話してくれました。「スカウトは友情に篤(あつ)い。スカウトは質素である。スカウトは感謝の心を持つ」、その三つを、じゃあ自分たちがどういう時に大切だと思ったか、どういうふうに自分はそれを実践したかっていうことを話してくれました。だから、みんなの前でその誓いを言うってことは一つの儀式です。それは、それが大切だなっていうことを思い出す。だけど、それは、普段の活動の中でそれを自分がやっていく、そのためにやります。

ごミサもそうです。ごミサは「神様がみんなを呼んでいます」っていうことを式で表します。それは二つ理由があります。二つの目的のために神様はみんなを呼んでます。一つは、一人ひとりを直接イエス様が助けるために、一人ひとりに必要なお恵みをくれるために。そしてもう一つは、イエス様と一緒に他(ほか)の誰かのために何かをすることのできる人になって欲しいと呼んでるんです。協力して欲しいから。それを思い出す。そして、わたしたちは信じているので、そのためだったらいくらでも神様が助けてくださる。その助け、恵みをいただくためにミサがあるわけなんです。

「みんな子どもたちが役割をやってくれてるから、神父さんが元気になります」って言いましたけど、みんなの中でも、例えば、みんながお家の人、お父さんやお母さんに対して「ありがとう」って言うならば、それはすごくお父さんお母さんにとっての力になるんです。それは、イエス様が直接現れて、イエス様が直接来て、そして、「子どもたちの世話をしてくれてありがとう」って言ってくれることも素晴らしいけれども、でも子どもたちが直接「ありがとう」って言ってくれるほうが、もしかしたらお父さんお母さんにとってはすごい力になる。だから、イエス様一人だけではできないことがあるから、一緒にして欲しいんです。

例えば、学校に行ってる人たちはクラスで寂しい思いをしている子がいたとして、イエス様が直接その子を慰めに行きたいと。でも、イエス様が直接行ったらどうでしょうか。ユダヤ人の知らないおじさんが急に入って来て一緒に遊んでくれたら、それは楽しいかもしれないけど、ほんとにその子が、この寂しくしているクラスメートが望んでいるのは、一緒のクラスのクラスメートの仲間になることですね。だから、イエス様はみんなの心の中に入って、みんなと一緒に誰かを助けたいと思って呼んでいるわけです。

皆さん、どうでしょうか。今日ここに集まって、心の中で「イエス様、わたしは今、誰を大切にしたらいいんでしょうか」っていうことを聞いたら、きっと神様がいろんなことを教えてくれると思います。

大人の人にも申し上げます。今日は「世界召命祈願の日」になっています。「世界召命祈願の日」というのは、昔は司祭やシスターになる人がたくさん出ますようにっていうことにフォーカスしてお祈りする日でありましたけれども、現在の強調点は――もちろんそれも一つですが―― 一人ひとりがどんな状況でもキリストの呼び掛けに応えて生きるっていうことそのものなんです。だから、人生の職業とか生き方の選択だけではなくて、今この瞬間に一人ひとりが、何をイエス様はわたしたちと共に、わたしたちを通してなさろうとしているのかっていうことに耳を傾ける、それが召命なんだ、と。それは何十歳でも、人生の選択をするための若者のためだけではない、すべての人が、特にキリスト信者が、召命を生きるということはすべてのキリスト信者の道である、とうことを思い起こす、そしてそのために神様の導きを願う日ということです。

一人ひとりの召命の道っていうのは、「神様の愛を見出す道であると同時に、ほんとの自分自身に出会っていく道です」と教皇様はメッセージの中でおっしゃっています。今日特に、ここに集まっているこの子どもたちがそれぞれの人生の中で、自分自身の神様からいただいた素晴らしさと出会い、そしてその素晴らしさを与えてくださる神様にもっと深く出会っていけたらいいなあと思いながら、子どもたちのために、そしてお互い同士のために祈り合う、その心を持ちながらこのごミサを続けていきたいと思います。

参照：
2024 年「第 61 回世界召命祈願の日」教皇メッセージ（2024 年 4 月 21 日）「希望の種を蒔き、平和を築くよう呼ばれて」
https://www.cbcj.catholic.jp/2024/04/02/29404/

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。
PC　http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi
携帯　http://www.koenji-catholic.jp/mobile/